

大河ドラマ「逆賊の幕臣」の放映による 群馬県内への経済波及効果

群馬経済研究所 主任研究員 稲田純也

調査のポイント

2027 年に放映予定のNHK大河ドラマ「逆賊の幕臣」は、小栗上野介^{ただまさ}忠順を主人公とする作品である。県内には関連史跡が多数あり、放映をきっかけに観光入込客数や観光消費額の増加が期待されるため、これによる県内への経済波及効果を試算した。

要約

- 当研究所の試算では、「逆賊の幕臣」の放映により、本県の観光入込客数は133万人、観光消費額は113億円の増加が見込まれる。
- 観光消費額113億円のうち、県内産業に実際に支払われる金額（直接効果）は70億円である。そこから派生する産業間の取引や雇用者の消費により、県内産業にもたらされる生産・販売増加額（間接効果）を含めると、県内への経済波及効果は合計で107億円にのぼると推計される。
- 本作の放映を一過性の盛り上がりで終わらせず、持続的な観光振興へとつなげていくためには、戦略的な視点と、地域一体となった取り組みが求められる。